



泳

チカラの限り



漕



駆

新コース設定！ 国内外のアスリート集結

北海道トライアスロンが、洞爺湖畔、羊蹄山麓を舞台に行われました。

今大会は、道内のほか沖縄県など全国各地から過去最多の298人がエントリー。台湾からの出場者も多く、国内外の選手が集まりました。

これまでは、珍小島公園を起点に洞爺湖を半周し、羊蹄山麓を通ってから再び湖畔に戻る160キロ超のコースのみでしたが、今回はバイクの走行距離を短くし、およそ120キロまで総延長を抑えた新コースを設定。女性やシニア層のエントリーも多く、より幅広い層のアスリートが集まりました。

選手たちは、午前7時の号砲と同時に一斉にスタート。湖に設けられた2キロのコースを泳ぎ切ると、バイクに乗り換えて壮瞥町を経由しながら北上しました。京極町の折り返し地点を過ぎると真狩村などを通り過ぎながら南下

し、温泉街へとひた走りまし

た。最後は温泉街から月浦地区まで伸びるランニングコースを走破。ゴールでは、達成感に満ちた選手たちが互いの健闘をたたえていました。



Aタイプ

スイム 2.0km
バイク 136.9km
ラン 23.1km エントリー数 171人

Bタイプ

スイム 2.0km
バイク 91.7km
ラン 23.1km エントリー数 127人



北海道トライアスロン コース紹介



今大会から北海道トライアスロンにA、Bタイプのコースが設定されました



1. 羊蹄山を背にバイクを走らせる選手
2. 新コースのエイドステーション
3. ゴールした台湾人選手





トライアスリーターを支えるモノは一

スイム、バイク、ランナー。

トライアスロンは、全く異なる3種目を組み合わせ、タイムを競うアメリカ発祥のスポーツです。コースも長いため、スタミナ切れやバイクの故障などのトラブルでリタイアを余儀なくされることも少なくありません。選手たちは、なぜ過酷なレースに挑むのでしょうか。

朝の日差しがまぶしい午前6時過ぎの珍小島公園は、選手たちの熱気に包まれていました。スタート時刻が間近に迫っているにも関わらず、どの顔にもリラックスした表情が浮かんでいます。湖の水温を確かめながらゆっくりと泳いだり、記念撮影を楽しんだり、あまり緊張した様子は伺えません。

いざレースが始まると、勢いよく湖に駆け込む選手たち。激しい水しぶきの音と同時に上がったのは見守る観客の声援。家族や友人が、選手の名を呼びながら懸命に励まします。

陸に戻った選手は握りこぶしを上げたり、親指を立てながら笑みを返し、着実に水路を攻略しました。

大自然も選手を鼓舞

3種目の中で最も長丁場となるバイク。大きなアップダウンもあり、体力を奪われますが、ここでもエールは絶えません。沿道で手作りの看板を掲げ、「がんばって!」とをのどをからす地元の人々。折り返し地点がある京極町では、雲に隠れていた「蝦夷富士」羊蹄山も姿を表し、麓を駆ける選手たちを見送りました。

ゴールの向こうに

23・1キロのランは、疲れた選手にとって最後の難所。しかし、温泉地区のゴールでは到着を待つ家族や仲間、ボランティアスタッフが懸命に声援を送ります。無事完走した選手は、道中の自然の美しさを語り「楽しかった」と声を揃えました。

過酷なはずですが笑顔と歓声が絶えなかったトライアスロン。そこには、人と自然を支えに自分の限界に挑むトライアスリーターの姿がありました。



入賞者に聞いてみました！ 北海道トライアスロンの魅力

Aタイプ優勝

久保 一輝さん (33) =東京都=

「2013年から15年まで洞爺湖で行われていたアイアンマンレースに出場していました。久しぶりの洞爺湖のレースでしたが、北海道らしく涼しく、きれいな自然を楽しめました。北海道トライアスロンは初めての出場でしたが、良い結果を残すことができうれしいです。10月にはハワイで行われるアイアンマンの大会に出るので、今回つかんだ手応えをもとに準備していきたいです！」



Bタイプ女子1位

野崎 佳代さん (53) =和歌山県=

「北海道トライアスロンはずっと楽しみにしていました。洞爺湖がすごくきれいで、今まで出場した大会の中で一番楽しかったです。今回が初出場でしたが、また来たいです」

Bタイプ優勝

小池 賢さん (45) =千葉県=

「北海道トライアスロンは2回目の出場になります。景色がすごく良くて大好きな場所です。今回は距離が短いBタイプに出場しましたが、アップダウンがあって走りごたえのあるコースですね。気候も涼しく、レースしやすかったです」

